

福島新エネ社会構想 — FUKUSHIMA

～再生可能エネルギー先駆けの地・水素社会実現を目指して～

2012年3月 福島県は復興の大きな柱として、福島を「再生可能エネルギー先駆けの地」とすべく「2040年頃を目途に福島県内の1次エネルギー需要量の100%以上に相当するエネルギーを再生可能エネルギーから生み出す」という目標を設定。

2016年9月 エネルギー分野からの福島復興の後押しを一層強化していくため、国、県、関連企業などが一丸となって、再生可能エネルギーの最大限の導入拡大を図るとともに、再生可能エネルギーから水素を「作り」、「貯め・運び」、「使う」、未来の新エネルギー社会実現に向けたモデルを福島で創出することを目指し、「福島新エネ社会構想」を策定。

2021年2月 福島新エネ社会構想の改定を経て、福島県は、2050年までに脱炭素社会の実現を目指す「福島県2050年カーボンニュートラル」を宣言。

再生可能エネルギーの導入実績（原油換算）



再エネ先駆けの地 TOPICS

太陽光、風力等の再生可能エネルギーの最大限の導入拡大を進めています。

TOPIC 1



福島新エネ社会構想に基づく共用送電線整備

避難解除等区域において、原発用送電線を活用し、再生可能エネルギー導入を推進するために、福島新エネ社会構想に基づき進めている共用送電線の整備及び共用送電線に連系する再生可能エネルギー発電事業を支援します。共用送電線整備により約600MWの再生エネ導入が実現する見込み。

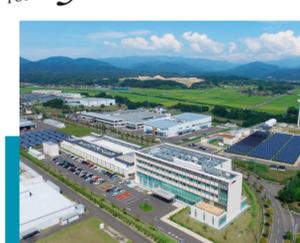
TOPIC 2



スマートコミュニティ構築

東日本大震災の被害を大きく受けた浜通り5市町村において、復興まちづくりと一体となったスマートコミュニティ事業を推進。

TOPIC 3



福島再生可能エネルギー研究所

2014年4月 産総研の新たな研究開発拠点として福島県郡山市に設立。福島県内技術の実用化に向け、県内の企業の持つ再生可能エネルギーに関する技術の評価し、実用化を支援する活動を実施。

水素のまちづくり TOPICS

再生可能エネルギーに加えて、水素のまちづくりをパートナー企業と進めています。

TOPIC 1



福島水素エネルギー研究フィールド

浪江町が整備中である棚田産業団地の一角を実証エリアに、再生エネ由来水素の大規模実証プロジェクトが進行中です。世界最大級となる1万kW級の水素製造装置で現地に設置する太陽光パネルからの電力を最大限活用した水素エネルギーシステムを構築します。

TOPIC 2



県有施設等への定置式燃料電池の設置

「あづま総合運動公園」と「グレイッジ」に県が設置した純水素定置式燃料電池（100kW・700W）が2020年6月29日より稼働を開始。NEDOとの協定に基づき「福島水素エネルギー研究フィールド」(FH2R)でつくられた県産水素を活用します。

TOPIC 3



水素を活用した新たな未来のまちづくりに向けた検討

2021年6月トヨタ自動車および各参画パートナーとともに、検討を開始。30万都市をフィールドに、コネクテッド技術を活用したFCトラックの導入を推進するほかFCキッチンカーやドクターカー等の運用、店舗や工場で水素を活用することによるサプライチェーン全体で脱炭素化社会実現へ向けて始動しています。

脱炭素社会に向けた TOPICS

県民が互いに協力し、協調し、共創する。オール福島で、福島ならではの脱炭素社会の実現を目指しています。

TOPIC 1



「福島」×「脱炭素・資源循環・自然共生」福島再生・未来志向プロジェクトの開始

2018年8月 福島県内の地元のニーズに応え、除染や汚染廃棄物対策といった環境再生の取組だけでなく、脱炭素、資源循環、自然共生といった環境の視点から、地域の価値を創造・再発見する未来志向の取組を力強く進めています。

TOPIC 2



「ふくしまグリーン復興構想」の策定

自然環境の適切な保全と保護意識の醸成、自然公園の魅力向上等による利用者数回復と交流人口拡大、さらに、持続可能な利用のための環境負荷低減施策など、福島の豊かな自然環境を「まもり、みがき、未来へつなぐ」取組を進めています。

TOPIC 3



環境省と福島県による連携協力協定の締結

環境省と福島県は2020年「福島の復興に向けた未来志向の環境施策推進に関する連携協力協定」を締結しており、協定の3本の柱である「ふくしまグリーン復興構想等の着実な推進」、「復興と共に進める地球温暖化対策の推進」、「ポスト・コロナ社会を先取りした環境施策の推進」について、連携協力して取り組んでいます。

TOPIC 4



地球にやさしい「ふくしま」宣言

「福島県2050年カーボンニュートラル」宣言を踏まえ、2021年を「リスタートの年」と位置づけ、地球温暖化防止に向けた全県的な気運醸成を強力に推進し、県民総ぐるみでの活動につなげるため、ロゴマークおよびスローガンを新たに策定するとともに「地球にやさしい「ふくしま」宣言」を決定しました。

県民一丸となって、2050脱炭素社会へ。

「福島県2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて、県民総ぐるみの省エネルギー対策の徹底や再生可能エネルギーの最大限の活用など、福島県ならではの取組を強力に推進することとしています。持続可能な脱炭素社会を目指し、一人ひとりの気付きと行動を大切にしながら、県民、事業者、市町村等あらゆる主体が一体となって、地球温暖化対策に取り組んでまいります。

福島議定書事業

学校や事業所の皆様が、自らの目標を定めて知事と「議定書」を取り交わし、地球温暖化対策に取り組む。

みんなでエコチャレンジ！事業

家庭一世帯あたりで排出される二酸化炭素の1%以上の削減を目指し、家庭でできる身近なエコ活動をまとめた「福島エコ道」の実践を進める。

マイボトル・マイカップ推進事業

企業と連携したプラスチックごみ削減のキャンペーンを展開し、マイボトル・マイカップを職場や学校、外出先、協力販売店等で使用していただくなど、環境にやさしいライフスタイルへの転換を図る。

